



大きな声で春を呼ぶ



(幼稚部の「豆まき」)

先週は、節分行事として幼稚部恒例の豆まきが行われました。紙皿で作った個性豊かな青鬼、赤鬼のお面をかぶり、今か今かと恐る恐る待っていた園児たち。金棒をもってワーの叫び声で飛び出してきた赤鬼にびっくりしながらも、気を取り直して「おにはそと」の声とともに豆を投げ返して鬼を追いかけていました。余りの激しさに鬼は一目散に逃げていきました。必死に豆を投げる園児たちの姿は、かわいいものでした。最後に廊下に散らばった豆の掃除をお母さん達と一緒にしていた園児たちには、思い出に残る行事となったのではと思います。鬼役のお父さん、お疲れ様でした。準備をしていただいた幼稚部保護者の皆様、ありがとうございました。

この日の全校朝礼では 私も「節分」の話をしました。「豆まき」のいわれが、少しはわかったでしょうか。話の中で、鬼の昔話として紹介した「桃太郎」は、さすがほとんどの子どもたちは知っていましたが、「一寸法師」や「ないた赤おに」の話を知っていた子は、思いの外少なく、意外でした。私たちには親しんできたお話ですが、海外で暮らしていると、日本の昔話や絵本に接する機会が少なくなっているのかもしれない。節分にちなんだ立春の行事や風習は、今も日本各地で取り組まれています。幼稚部で取り組まれているこの伝統行事は、今後も引き続けていきたい行事となっています。

さて、この日も全学級で放課後、学芸会の練習が熱心に行われていました。中学部では、漢字検定の受検者が受検時間帯と重なって練習に参加できませんでしたが、それでも中学生たちは、遅くまで何回も台本に目を通し、練習を重ねていました。小学部でも、台本を既に暗記していて、声を張り上げている子もいれば、台本に目が離せない子もいて様々ですが、それぞれ、少ない時間に練習を積み重ね、また、家庭でも練習をしっかりとっているのでしょうか、声がよく出てきました。日本語学習の発表の機会として学芸会は、子どもたちの日頃の学習成果を群読や朗読を交えて発表する機会です。絵本や物語・詩・教科書教材の中から選ばれた題材や、東日本大震災の被災地で紹介された詩の朗読などいろいろな演題が演じられます。いよいよ、来週が本番です。発表の見所を来週の補習校だよりで紹介します。ご期待ください。



(小学3年生の学芸会練習風景)